

現場力 人間力

現場品質を支えるプロフェッショナルに聞く



有限会社 タカシマ シーリング 取締役 高島伸一 氏

「可能ならやろう不可能なら挑戦しよう」

常に向上心を持ち、ブレない自分を作る

—防水工事の中のシーリング防水に携わっておられます。この仕事を始めたきっかけは？

工業高校の電気科を卒業後、国鉄（JR）でサラリーマンをしていました。専門学校や大学卒とはスタートラインが違うしもちろん給料も違う。これなら専門学校に行きたいなと途中から思い始めて退職し、その学資を稼ぐために友人がいた会社でのアルバイトがスタートです。21歳で始めて最初は雑用ばかりだったし、いずれ元の業界に戻るつもりでした。でもヘラを一本作ってもらってからだんだん面白くなったんです。覚える気があるなら時給上げるよと社長が言ってくれました。

3年で手間受けにしてもらって、10年ほどして独立。さらに10年後に会社にして、今は自分を入れて社員6名でやっています。大きな現場は一作業員として入ります。現在、職長で入っているのは東京ドームのホテルやラクアなどの施設の改修で1か月1～2回くらいスポット的にやっていて5年近くになります。

—印象に残っている現場はありますか？

駆け出しの頃、川越プリンスホテルの現場に職長で入りました。初めての施行方法だったので試行錯誤しながらやるけれど自分の方向性が定まっていなかったからブレるんです。参ったなど。案の定指

摘されるわけです。いろいろと必死で考えました。時間をかけるにしても効率よくやらないと工程があるし、利益も上がらない。だんだん慣れてきて時間内に収まり見栄えも良くなっていった。あの現場が自分の原点かな。汚いなあと言われなかったらやっぱり進歩していなかっただろうなと。結局その時所属していた会社の先輩に来てもらって手直しをお願いしました。でもそんなに変わらないですよ。俺の方が上手いんじゃないかなと思ったりね。次の商業棟もやって下さいと言われてた時はホッとしました。

—後輩や社員さんを指導する時に心がけていることは？

丁寧に、ですかね。仕事は新築も改修もあります。特に改修工事のときは何で改修するのかを必ず聞けと言います。単に築年数が経ったからという場合もあるし、漏水の事も調べてほしいという場合もある。大きい現場の新築工事だと図面も見ます。ここはこういう収まりじゃないと漏水しちゃうよと。防水屋ですから漏水が一番いけない。自分のケガももちろんだけど、一番の事故はやっぱり漏水。ここは先にコーキングしないと水が入っちゃうとか、どこまでコーキングすればいいのとか、そういうことを最初に現場では作業する人に教えないといけないよと伝えます。ひとこと言ってあげれば注意をすることができる。だから何のためのシールか、仕事かということをきちんと聞かないといけないのです。

—1級技能士でいらっしゃいます。国家資格である技能士の位置づけをどう思われますか？

相撲では横綱が最高位です。なるのも大変だし、なったらその地位を維持するためにすごくがんばっていると思う。1級技能士も似たようなところがあると思うんです。なんでもできなくちゃいけないし人間的にも素晴らしくなくちゃいけない。技能検定を客観的に見ながら、コイツちょっとなあというのもあるわけです。身なりにしても。技能士の試験を受ける、受かった、すべてにおいて10点満点の10でないといけなくて、4とか5でなくもう少しすべてを磨いてから来た方がいいんじゃないと思うことはあります。だからといって自分が10点かはわからないですけど。

昔、ある大きな会社の雇い入れ教育を受けたんです。終わる時に「お疲れ様。最後にVSOPをプレゼントしましょう。高島君お酒じゃないよ。私が先代の社長から受けた訓示を自分の戒めにしているんです」と言って話してくれたことがあります。Vは何だと思う？と聞かれても質問自体が分からない。Vはバイタリティだよ。現場の詰め所や会社におはようございます！と高島君が入ってきたら雰囲気ガラッと変わったと言われる、元気を与えられるような生命力あふれる人になってもらいたい。次にS。スペシャリティ。シールという専門職、技術職だからすべてにおいてスペシャルになって、専門知識を蓄えてあいつに聞けばなんでもわかると言われる人になってほしい。Oはオリジナリティ。高島君のやり方を確立してくれと。最後はP。これが一番大事だよ、パーソナリティ。現場に来ておはようもお疲れも言わず何のコミュニケーションもない職長じゃダメだ。聞いても答えられない教えない先輩じゃダメで人格、人間性が大事なんだよ。下手くそでも人格が大事だよと教えてくれた。だから技能士というのは横綱であり、10点満点じゃなきゃダメじゃないかなというのが頭に入っているの、こいつに俺の家を任せられないと思われないうちももっと磨かないといけないうちも。偏見かもしれないけど。

—どんな人と一緒に仕事をしたいですか？

教える側として言うなら、教えがいのある人は常に向上心、探求心を持っている。そういう人は短期間でやっぱり伸びます。あと素直なこと。不真面目でも素直ならやつは伸びる。それから、建築業がちゃんとした受け皿があって、ある程度素人でも給料が高いレベルでないと今の時代にわざわざ建築業を選ばないと思うんです。魅力ある仕事にするためにも給料が良いという部分は必要と思う。今は高収入になる魅力的な業界になりつつあるのかな。社会保険制度などもやっていかないといけないし。親御さんもそういう会社なら安心します。でもやっぱり努力しないと高収入にはならない。



自分の座右の銘というほどではないけど、ヴィクトル・ユーゴーの言葉で「可能ならやろう不可能ならあえて挑戦しよう」というものがあります。自分に負けちゃいけないということ。常に挑戦し、もっともっと上を、前をとるという思いがあれば極められると思うんです。自分の子供にももっと上いけ、前にいけと言っていますが、それには努力と、探求心や向上心も必要。結局は何のためにこの仕事をするのかということだと思ふ。もちろん生活のためなのは当たり前ですけど、もっと奥深く突き詰めると、一番になろうという向上心、ブレない自分があれば負けないということかな。すべてにおいてそうだと思うけれど、何のためにという目的をはっきりするのが自分を強くするというかブレない自分を作る。そうやって自分は今までやってきたのかな。ブレちゃうことあるけど。もっともっとと思って、自分に負けないうちも。

2019年5月